思いつきによる自殺手段の選択

重森雅嘉¹・村越暁子¹ (¹鉄道総合技術研究所)Key words: 自殺, 手段, 記憶

目 的

鉄道を含めた乗り移動物への飛び込みによる自殺は、男性が 2.1%、女性が 3.6% (2003 年度)と自殺手段の中では多くはないが(厚生労働省)、鉄道の輸送障害に占める鉄道自殺の割合を考えると、鉄道輸送への影響は無視できない。たとえば、鉄道の輸送障害のうち、災害や鉄道係員の取り扱い誤り、車両、鉄道施設の故障以外の鉄道部外の要因によるものは、2005 年には 1542 件発生しており、このうち、自殺によるものは約 3 分の 1 の 543 件である(国土交通省, 2006)。しかし、自殺者は、なぜ鉄道を自殺手段として選ぶのであろうか。

人が何かを決定するときには、ヒューリスティクス的に思いついたものをとりあえず選択する場合とアルゴリズム的に取り得るものを網羅的に検討する場合がある。本研究は、鉄道自殺を含めた自殺手段の選択が、思いつきをベースに短絡的に決定されるのか、さまざまな手段の損得を熟慮した末に決定するのか、自殺者の基本的な手段選択スタイルを明らかにすることを目的として実施された。

方 法

調査対象者は、女子短期大学生 88 名、平均年齢 18.28 歳(SD 1.00)であった。

調査は 2006 年 1 月に集団場面で実施した。まず調査用紙を配布し自殺手段として思いつくものを思いついた順に記述させた(思付テスト)。当該調査用紙を回収した後、別の調査用紙を配布し、用紙にあらかじめ印刷されている 9 個の自殺手段について、自殺するとしたら採用すると考えられるものを 1 位から 9 位まで順位付けさせた。この際同時に、各手段について選択する理由と敬遠する理由も記述させた(熟考テスト)。熟考テストで評価させた自殺手段は、実際の自殺で採用された手段から、首つり(縊首)、飛び降り、ガス、飛び込み、薬物、溺死、自傷(鋭利な物体による自傷)を選択した。これに、インターネット等を介して広がりつつあった排気ガスや練炭を用いた集団自殺を加えた。

結 果

思付テストと熟考テストの選択比率を実際の自殺に用いられた手段の比率(厚生労働省 2003 年度)と比較した。なお、本調査の対象者がすべて女性であったため、実際に用いられた自殺手段のデータも女性のもののみを用いた(自殺手段の傾向に男女差は見られていない)。

調査の結果は、思付テストの自殺手段比率の順位(1位首つり、2位飛び降り、3位薬物)(図2)の方が、熟考テストによる自殺手段比率の順位(1位薬物、2位練炭、3位飛び降り)(図3)よりも、実際に採用された自殺手段の比率の順位(1位首つり、2位飛び降り、3位薬物、溺死)(図1)と類似しており、自殺手段の選択は、簡便さや確実に死に至る可能性などを熟考して決定するよりも、思いついた手段がそのまま実行される可能性を示唆した。

考 察

実際の自殺手段の比率順位が、熟慮テストよりも思付テストの比率順位と対応していたことは、殺を考える人の多くに抑うつなどの気分障害が関連していること(堀内, 2003)、および、抑うつの特徴として思考力の低下があげられていること(American Psychiatric Association, 2005)と一致する。

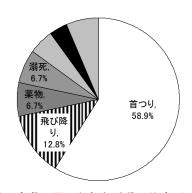


図1 実際の自殺で用いられた手段の比率 (2003年度)

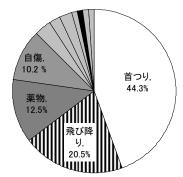


図2 思いつきやすい自殺手段の比率

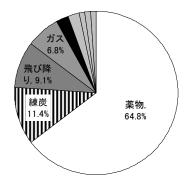


図3 熟考した場合に選択されやすい自殺手段の比率 (黒い部分は飛び込み自殺)

また、この結果は、鉄道事故防止には自殺報道や自殺発生時の案内放送の規制や工夫など、自殺手段としての鉄道の思いつきやすさを低減させる方法が有効であることを示唆する。

引用文献

American Psychiatric Association 2005 Let's talk facts about depression, American Psychiatric Association.

堀内健太郎 2003 自殺と精神科診断学. 精神保健研究, 49, 35-40

厚生労働省 自殺死亡統計の概況人口動態統計特殊報告. http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/suicide 04/14.html

国土交通省 2006 平成 17 年度鉄道事故等の発生状況について. http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/08/081006/02.pdf (Shigemori Masayoshi, Murakoshi Akiko)